

<白金標準、WPIC は更なる供給不足拡大を示唆・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数や FOMC、ECB 理事会などを経て金融市場では、FRB の早期の利下げ観測が高まりを示し、債券市場では米国 10 年債の金利が 4% を下回り、為替市場でも一時 151.80 円まで円安・ドル高が進んでいたが FOMC で一転し 140.99 円まで円高・ドル安が進むなど、為替市場のボラティリティは高まりを見せている。特に円建て貴金属の価格は、ドル建て価格がドル安で大きく反発したが、円建ては価格は円高に抑えられている。

しかし白金市場は、アングロ・アメリカ・プラチナがコスト削減を実施し、2024 年の生産目標 4%削減を発表し、英国政府はロシア産パラジウムの購入禁止を発表し、WPIC は不採算鉱山が続くと供給不足が拡大する可能性を指摘するなど、需給要因から 950 ドルを回復し週末には一時 973.2 ドルまで高値を試している。特に白金標準先物は、4138 円で下げ止まると大幅な円高でも 4351 円まで戻りを強めており、需給要因が支える値動きに思える。また NY 白金は 11 月の高値を更新しているが、白金標準先物は円高に抑えられ更新していない。そのため今週は日銀金融政策決定会合後の値動きに注目した方が良いと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** は切り上げながら、**シグナル** は下げ渋り、RCI でも **短期** は上昇し、**長期** は切り下げている。特に **200 日移動平均線** が 4309 円で切り上げるなど、4300 円を下回る確率は低いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,470,000 円(2023 年 12 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2023 年 12 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>